

(一面よりつゞく)
如何なる凡庸人も必ず名市長たり得るは、敢て説明を要さない事である。

少年團結したる白虎の隊は、よく國歩艱難に處して、世界に盛名を馳せた。然るに今や三十の市會議員は、政黨の爲に、感情の爲に、將た野心の爲に、分裂兩立して、縣下に醜名を流し、世間の物笑ひとなつて居る。正に白虎隊の名を辱かしめるものと云ふべく、飯盛山の英靈に對しても申譯はない事と思はれる。市

君子は人の美を成して人の惡を成さず。小人は之に反す。
孔子

政を料理するに、政黨は禁物である、況や感情野心をやである。須く之を一掃清洗して、五萬市民打つて一團となり、市是を確立して總親和總努力すべきである。其處に平和もあり發展もある。市會議員は少くも其指導者であり實行者であらねばならぬ。現市會議員は、斷然從來の行きかゝり一切を水に流して、虚心坦懐、佐瀬穴澤兩氏に妥協を促して、兩氏中より新市長を推薦擁護する事に努め、若し兩氏にして背んぜずば、他に候補者を物色すべきである。

由來會津藩は人材に乏しくない。市會議員にして此舉に出つるにすれば、適任者を得る決して難くはないと思はれる。三十市議にして此我提言を容るゝ宏量なしとすれば、市議たるの資格なき者と思はれる。速かに連袂總辭職によつて其不明不徳を五萬市民に謝すべきである。而して市民は、政黨政派を超越して、眞に憂市至誠の士を、市議として選ぶべきである。

會津精神、會津魂の特色は、如何なる難境に處するも其節を變じない點にあると思ふ。語を代へていへば、會津の名を辱しめざる強情である。會津出身の成功者を一瞥するに、何れも此強情の持主であるに徴しても之を證する事が出来。されど強情も一歩誤れば頑冥となる、頑冥なるが死したる人士



共濟會委員方面 小島、御厩、境、小島、御厩、境、小島、御厩、境

の少なからざる、之亦其一證左である。佐瀬穴澤兩氏も、三十市議も、此に大に反省すべきを建言する。而して吾人をして、若松市に人物なきかの嘆聲を發せしむる要なからん事を望む。

御臺境、小島、御厩方面 共濟會委員活動

五月十六日以上三方面の委員諸氏は、御厩校に會合諸般の打合せをなし、同二十日生憎の豪雨を物ともせず、會員募集を決定し、御臺境は會員三八、會費白米二斗七升、金六圓參拾錢、小島は會員八六、會費白米三斗四升、金參拾圓參拾錢、御厩は會員一三七、會費白米一石三斗六升五合、金貳拾六圓九拾五錢の好成績を挙げた。而して其出動したる人々は左の通りである。

- 會長 野木徳之助、副會長 大内民
- 委員 野木徳之助、野木力、野木たみよ、網掛榮之助、齋藤齊、下山田榮三郎、菅波よれ子、青年團員 野木朝喜、根本玉造、下山田清風、櫻橋齊、野木彌三郎、生田傳一郎、磯上義公、網掛博正、大谷一、木田昌夫、野木彌三郎、高木英司、稻垣昌平、室越一郎、菊地金太郎、若松一郎、網掛源三、松澤五郎

七海部長退職

昨年七月負傷以來静養中であつた同巡查部長は、愈々退職本村に永住する事に決定。在職三十有餘年。綴在勤十二年頗令名あり其検死人員千數百。武徳殿建設の殊勲者。昨年六月叙勲の榮譽を得たのである。門口に出れば 子規 上野の若葉かな

矢野恒太序 大内民惠著 教育制度改革概論

行き詰れる現代の教育制度を解説し、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内民九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威 京大教授小西重直博士

書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試練ニ基ク眞實愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打テ申候云々。

日本評論社

發行所 東京丸の内昭和ビル 取次所 内郷村報社

陸上大運動會

全山一萬人の血を流した。驚氏の圖案教授の系統案の研究は、授業上有益なる資料であり、大橋氏の國體貯水池の新設等、愈實現完成したるを以て、五月三十

教育後援會の新陣容と活躍

學校と家庭との連絡及教育事業の後援を目的として昭和三年に組織せられた同會は、其後種々の事情故障等により、豫期したる成績を擧げる事が出来なかつたが、此度顧問大内民恵、會長野木龍之助、副會長石橋弘毅、本庄吉、幹事猪狩喜平治、山崎辰亥、佐藤喜作、菅野清四郎、柳平菊次郎、坪井文朔等の諸氏本部役員となり、通學區域を基礎として、兒童所屬學校を後援する方針をとり、それ、各方面に支部役員を新任し、會員募集を開始したるが、頗る好成績にて、宮高坂兩校方面にては既に、千數百名の入會者を見たるを以て、教育映畫無料觀覽、教育圖書文庫の設備等の計畫に就いてより、協議中である。

活動寫眞機購入

磐炭健康保險組合では、新に活動寫眞器を購入し、特に平野諭氏を派遣して、映寫方を研究させ、集會所、磐城劇場、金坂グラウンド三ヶ所に於て、有益なるフィルムを試寫して一般の觀覽に供したが、成績頗る優良であつた。

南天棒の講演

近代の傑僧中原鄧州師の衣鉢をうけたる、南天棒平松亮卿老師の巡錫を好機として、磐炭勞務課主催にて五月二十七日午後七時より磐城劇場に於て其講演會が開かれた。丁度當夜は同所に、健康保險の映畫試寫會があつたので、場内は老若男女を以て滿された。濱崎課長先づ簡單に、活動寫眞機購入の經過及今後利用の方針等を述べ、次いで老師を紹介すれば、師は平常心は道の題下に、乃木大將の幼年時代より、石橋居士に至るまでの修養參禪の有様を學の見地から頗る平易に

内郷分會の活動

在郷軍人内郷分會では、軍人會館納金、青年訓練器具購入資金募集のため、杉山崎正副會長を始め、役員全部總がかりで、五月二十六、二十七兩日に涉り、綴劇場、昭和館の兩所に於て軍事教育普及映畫を公開し

しかも興味深き例話によつて、講演する事約一時間半に誠至醇、正直眞面目が、之れ平常心は道であるを結論し、聽衆全体に多大の感銘を與へた。

三曲演奏會

勞務課主催で、五月三十日午後六時半から、從業員集會所で開催。曲目十番を石橋弘毅、長久保越井上惠助、齊藤春悦、名久井録三、千葉幸夫の從業員諸氏、石橋きみ子、土井よし子、佐藤ひろ子、宮川みや子、鈴木末子の諸令嬢によつて演奏せられ、飛入として佐藤虎城氏の琵琶、杵屋米八氏の三弦等も加はつて、初夏の一夜を思はす歡樂のうちに更かした。入場者五百の盛會。

組長制度廢止

磐炭に於ては、年來懸案であつた組長制度を廢止する事に決定し、五月十日之を發表し、十二人の組長諸氏に對し、多年の功勞に報ゆる爲め、退職金三組銀杯、酒肴料等を贈與したる由。

伊藤南州

氏講演會は五月十日昭和館に開催。淺野翁青年時代に義士外傳の講演があり、それに佐藤虎城氏の琵琶橋大隊長の演奏もあつたので、いやが上にも會衆満場身動きも出來ぬ位であつた。

短歌

東京 遠藤二郎
こなきにうみて鴨や眠らん
なこみはてたる春の海原
照りはゆる夕日の影にかへりみて
やまじきこは今日もなかりき
うつ、なく眠る人をはさましてむ
おたしからざるこおほき世に

麥笛吟社

たあいなき唯に移る利茶かな
志賀野壽司
溪水に若葉の色の走り居り
目黒星甫
うす暗き若葉の宮さなりにけり
濱崎冬至
鐘樓に佇む僧や若葉風
大賀竹支
本家より新茶送りに來りけり
高木柳江
雨音をき、つ、新茶汲みにけり
小野しげる
新しき壺にうつせし新茶かな
高萩六王
返禮に宇治の新茶の届きけり
原ひでを
ふきの葉に新茶の殻のか、りけり
鹿田夢峰
おもむくに雲影の行く若葉かな
皆川二樓
陽に透けて明るき庭の若葉かな
江連半仙
山門に若葉がくれさなりけり
高木撫山

掛冠故山に歸る

春風や舟のりする安らかさ
冠かけてかへる故山や鐘かすむ
鐵洗ふ久慈の流や鳥かへる
梅ちるや椽に投げ出すつかれ足
崎さなりて雀の四十年
那山 藤田貞雄

給を描いて眠たくなりぬ雨蛙

初夏の曇つや、こ子の育つ
生鮮や伊豆を見あきし霞の雨
行水のうしろに蔵王光りけり
白石 木綾園

消息

比島大バオバマス 四倉昌勝
神戸市若松高等校長 土岡直二
宮城縣黒川郡大谷村 跡部寛也
東京府下町中野役場 福島直太郎
相馬郡鹿島高校長 大橋彌太郎
西白河郡古瀬校長 鶴浦盛喜
石城郡泉村瀬尻 佐々木雅後
同 上遠野小學校 松澤透
盛岡市師範學校 野木五郎

餘録

丁度健康保險で最後の懸賞標語審査會が開かれた日記者は貴族院のヒカ一花井卓藏博士から書面をもらつたがどうしても讀めない處が二三あつたので之を幸ひ其日出席の水野虎三郎、濱崎善三郎、加美山武夫、石田秀二、山田徹郎、桑折將の各委員に其方の審査をも併せて御願した三人ごころか七人の智慧を絞つて漸く讀み上げた文句が、敬呈 先般御審議被下候高著教育制度改革標語論讀了致候 高論鄙見ニ合スル所尠カラズ又大ニ啓發スル所有之候厚ク御禮申上候 早々不一であつた△山田氏は訥辯の雄辯は三宅博士で惡筆の名筆は花井博士ださ聞いて居つたが實際其通りであるといへば濱崎課長は之で我輩も大に意を強うするに足るご出たので全員大に共鳴惡筆の名筆を禮讀した△序に説明しておくが記者から博士に本を贈つたのではなく、昨春矢野恒太氏が拙著百三十部を買ひ込んで各方面に贈呈したといふ事を聞いて居るから多分其一部であつたと思はれる△あの聲でトカゲ喰ふかやまきぎす三曲演奏會に於ける石橋主任と井上少尉の尺八長久保少尉の三弦と尺八まつた當年二十七歳の千葉商學士の三弦演奏等々げにや人は見かけによらぬもので磐炭は多士濟々何でも持つて來いである。